# 令和 7 年度 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに係る自己点検・評価結果

評価体制：学長・副学長会議
評価対象：令和 7 年度「東京医科大学　数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシー)」
評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル)」に準ずる

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|---|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | 令和 7 年度の履修者数は、医学科 127 名、看護学科 85 名であり、大学全体では 212 名であった。第 1 学年でプログラムを修了する医学科では、これまでの修了者数が 246 名となり、全学年における履修率は 35%となった。一方、第 3 学年でプログラムを修了する看護学科では、令和 7 年度時点で修了者はまだ出ていないものの、第 1 学年 85 名、第 2 学年 83 名が、必修科目としてプログラム構成科目を修得している。看護学科における履修率は 52.5%であった。 |
| 学修成果 | 各授業の担当教員が、成績評価（期末試験、課題レポート等）の結果を用いて、十分な学修成果が得られているかを確認している。また、各科目の授業内容の特性上、すべての科目で同一の方法により確認することは困難であるものの、LMS 上で受講者の講義・演習の進捗状況や、授業ごとに実施する確認テストの結果を分析し、継続的に学修成果を把握している科目もある。これらの結果は、学長・副学長会議において、本教育プログラムの評価および改善に活用している。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | 成績評価（期末試験、課題レポート）の結果や授業評価アンケートの結果をもとに、各講義担当者が学生の内容理解度を分析している。また、本プログラムを構成する科目の中には、授業終了時にショートレポートを実施し、授業ごとの理解度を確認しているものもある。令和 7 年度の授業評価アンケートでは、本プログラムを構成する科目において、講義全体のレベルや授業内容の理解度について、概ね肯定的な評価が得られている。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | 授業最終回に実施する授業評価アンケートをもとに、受講者の感想や意見を収集し、本プログラムのホームページやオリエンテーション等の機会において紹介することで、後輩等他の学生への受講推奨に期待できる。 |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | 本教育プログラムを構成する「保健統計学」は選択科目であるため、学生に対して履修を推奨している。また、令和 7 年度からは、同一内容の「保健統計学」を 2 クラス開講し、より多くの学生が履修できる体制を整備した。今後、履修者数および履修率のさらなる向上に向けて、「保健統計学」の必修化についても検討している。 |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|---|
| 学外からの視点 | |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | 令和 7 年度時点では、本教育プログラムを修了した卒業生はまだ出ていない。今後、本教育プログラムを修了した卒業生が出た段階で、進路や活躍状況等について調査を実施する予定である。 |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | プログラム内容については、担当教員の共同研究先企業等に対し、教育プログラムの内容や実施方法等に関する意見を定期的に聴取し、その結果をプログラム改善に活用することを検討している。 |
| 数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | モデルカリキュラムのリテラシーレベルにおける導入部分に準じ、幅広い分野での活用事例を紹介することとしている。また、生成 AI をはじめとする時事的な話題や社会的トレンドを取り上げ、AI 等が実社会でどのように活用されているかを示すことで、学生の興味・関心を高める講義内容としている。取り上げる実例については、学生アンケート等を活用し、内容の適切性や学生の理解度等について評価を行っている。 |
| 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること | 授業評価アンケートに寄せられた学生の意見を参考にしながら、授業内容及び実施方法について、学生にとってより分かりやすいものとなるよう継続的に見直しを検討している。 |

令和 8 年 6 月 18 日
学長・副学長会議